あさひまち

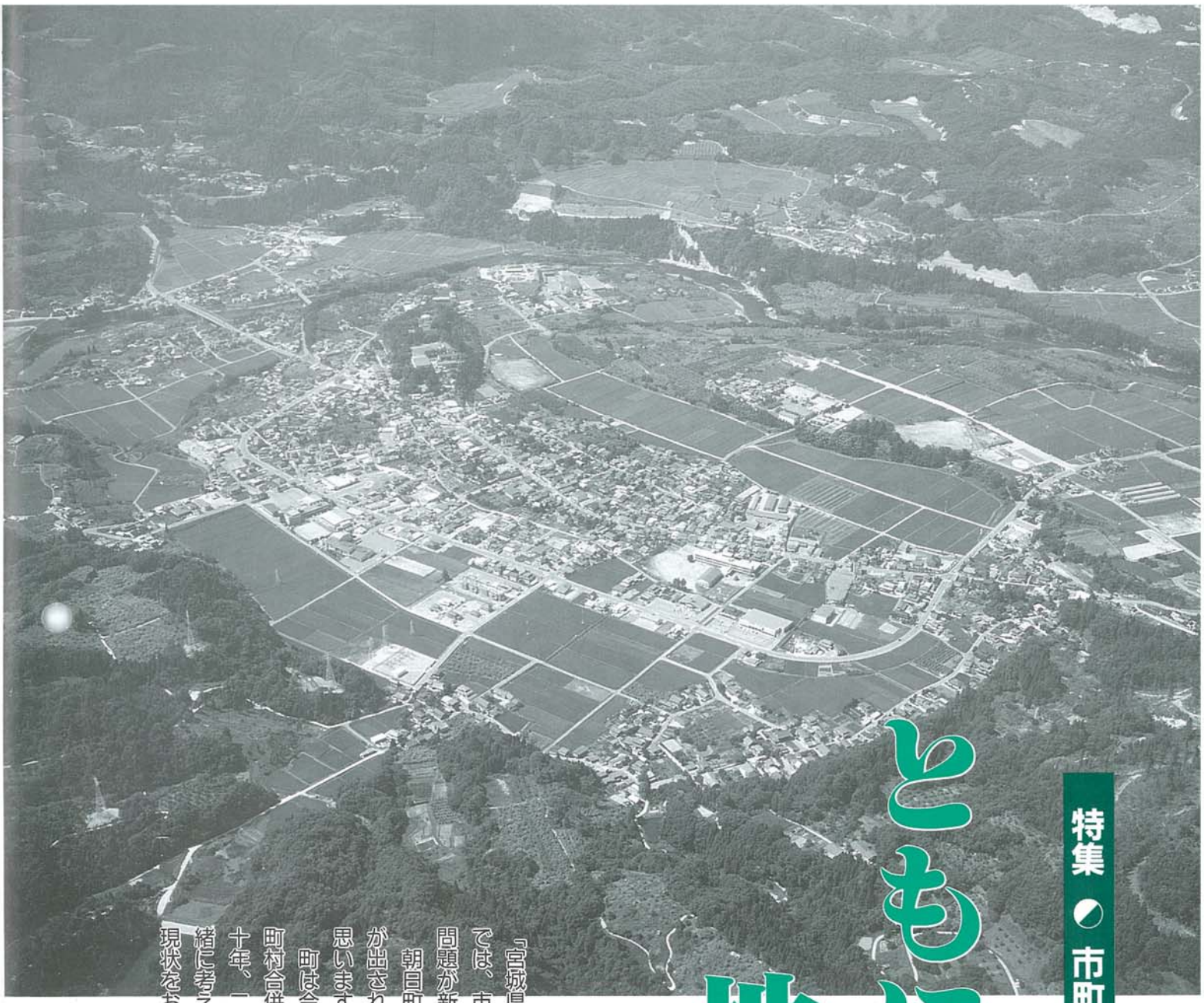
広　　報

2002 年 7 月号
No. 548

特集　ともに考えよう　地域の未来

町政スポット／朝日町共通お買物券発売、６月定例議会報告
カメラさんぽ／西部陶芸教室
まちの話題／朝日分校跡地に鐘楼建立、創遊塾開講ほか

ナイスショット!?
常盤区グラウンドゴルフ大会（7／7）



特集 ◐ 市町村合併を考える／シリーズ❶

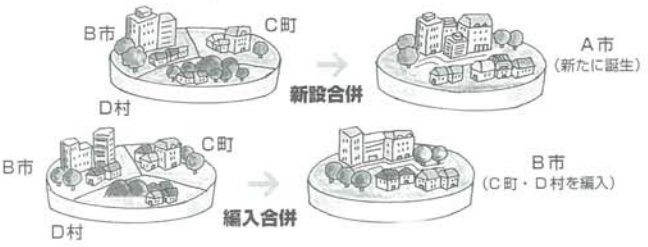
ともに考えよう地域の未来

「宮城県加美郡の四つの町が合併協議会を設置」「福島県東白河郡矢祭（やまつり）町では、市町村合併をしない宣言を町議会で議決」と、最近、市町村合併問題が新聞やテレビで大きく取り上げられています。

朝日町においても六月定例町議会の中で市町村合併に関する一般質問が出されたこともあり、町民のみなさんも関心を寄せられていることと思います。

町は今年五月、役場庁内に「市町村合併調査研究会」を立ち上げ、市町村合併についてさまざまな角度から調査研究することになりました。十年、二十年、五十年後の地域がどうあるべきかを町民のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。　そこで今月は、市町村合併の動きと現状をお知らせします。

ともに考えよう地域の未来



なぜ今、市町村合併なのか

地域社会を取り巻く環境は、少子高齢化社会への突入や高度情報化社会の到来などにより、大きく変化しようとしています。また、人々の日常生活圏は大幅に拡大しており、市町村の枠を超えた広域的な行動範囲になっています。

高度化・個性化している住民の需要と多様化・複雑化してきている行政課題に対応していくためには、行財政基盤を強化し、効果的な住民サービスを提供していくことが求められています。「市町村合併」は、その課題に対応するための一つの手段とされています。

国は、合併特例法を大幅改正し市町村の合併を支援

国は合併によって市町村の行財政基盤を強化させようと、現在約三千二百ある市町村を千程度にする計画を立てています。さらに「市町村合併の特例に関する法律（合併特例法）」を大幅に改正し推進を図っています。特に財政面での手厚い支援を打ち出しており、主な内容は次のとおりです。

●地方交付税の算定の特例

合併した年度とその後十年間は、合併しなかった場合と同様に地方交付税を算定して交付するというもの。ただし、その後五年間で段階的に減らされ、合併から十六年後には本来の算定方法に戻される。

●特別交付税の交付

合併した年度または翌年度から三カ年度にわたり、公共料金や公債費負担の格差是正などの経費について特別交付税の措置を講ずるというもの。また、合併移行費についても個別に特別交付税措置が講じられる。

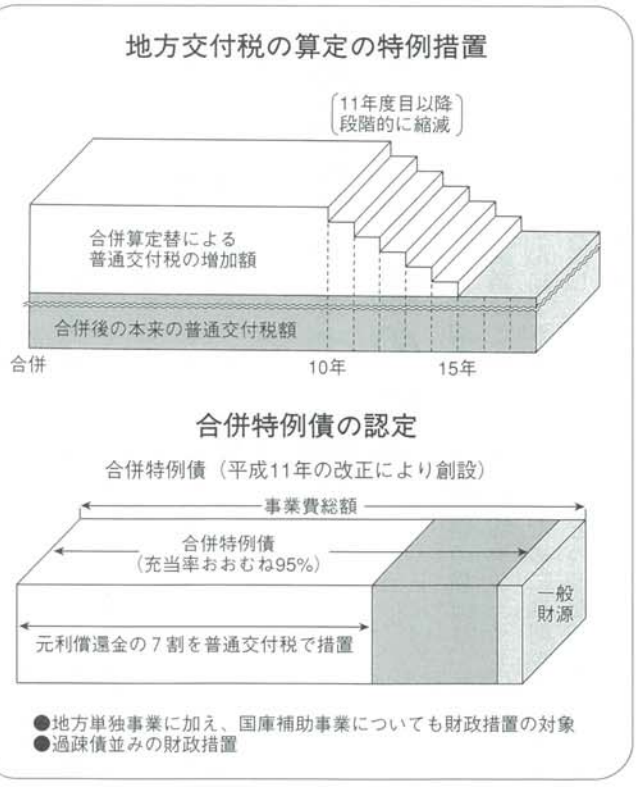
●合併特例債の認定

合併後十カ年度にわたり、市町村計画に基づいて行う公共施設の整備と市町村振興のための基金造成について、合併特例債（借金）を認めるというもの。

●住民発議による合併協議会設置の直接請求

有権者の五十分の一以上の署名があれば、市町村長に対して合併協議会の設置を請求できるというもの。

ただし、これらの特例を受けるには平成十七年三月三十一日までに合併しなければなりません。合併までの準備期間は約二年必要と言われており、現在、全国各地で合併の論議が活発化しているのはこのためです。



県が示した合併のパターン

県では平成十二年十一月に「山形県市町村合併推進要綱」を策定し、市町村合併を検討するための参考として、市町村合併のパターンを示しました。

要綱では、四十四市町村を八～二十七市町村にする案が示されており、朝日町の合併パターンとしては二つ掲げられていま

県が示した合併パターン

構成市町村	朝日町、寒河江市、河北町、西川町、大江町
市町村数	1市4町
面積	935.34㎢
人口	92,121人

（平成12年10月1日現在）

構成市町村	朝日町、大江町
市町村数	2町
面積	350.65㎢
人口	19,814人

（平成12年10月1日現在）

合併問題をテーマとした婦人若妻合同研修会

特集 ◑ 市町村合併を考える／シリーズ①

ともに考えよう地域の未来

す。一つは、寒河江市・河北町・西川町・大江町との合併で、もう一つが大江町との合併です。これらのパターンは歴史的つながりや経済圏などを考慮して示されたものです。

合併調査研究会でさまざまな角度から検討

県の合併パターンが示されたことを受けて、寒河江西村山の一市四町では昨年十一月、各市町の企画担当課長をメンバーとした「西村山広域行政圏市町合併調査研究委員会」を発足させました。西村山広域行政事務組合が事務局となり、月一回をめどに会合を開いて、各市町の現状分析や将来展望などの調査研究を進めています。

また、朝日町でも今年度に入り、各課の課長補佐十三人による「市町村合併調査研究会」を立ち上げました。自立したまちづくりに向けての課題を出しながら、合併の長所・短所の分析、合併した場合・合併しない場合の予測などを行っていきます。研究の結果は本年度中にまとめ上げ、町内団体との話し合いや地区の座談会の開催も検討しながら、町民のみなさんに判断材料となる的確な情報提供をしていきたいと考えています。さらに、管内市町の動きも視野に入れながら、必要に応じて住民アンケート調査も検討していく予定です。

また、県では、今年度新たに「山形県市町村合併支援プラン」を策定し、合併推進アドバイザーの派遣や合併協議会への補助金制度を設け、県内での推進に力を入れています。

合併問題をきっかけに考えよう地域の将来

六月定例町議会において清野町長は「合併問題の論議はこれから。町民のみなさんにできるだけ多くの情報を提供し、話し合いたい」と答弁しました。

合併問題の検討は、「これからどんな地域をつくっていきたいか」「そのためには何をすればよいのか」といった、地域の将来と地域づくりのあり方を住民と

市町村合併について一言

松田ミサヲさん
（立木）

住民サービスを一番に考えて

合併によって中心部だけが繁栄して過疎地帯はますます置いてきぼりになるのではないか、若者たちが自分の住んでいる町や村を愛せなくなって離れて行くのではないかと心配です。

また、役場職員も減るのであれば、今のようなきめ細かなサービスも受けられなくなるのでは…と思います。行政の本来の目的である住民サービスを一番に考えてもらいたいです。

齋藤　広治さん
（大滝）

町民の声を聞く場を設けて

私の勤め先は寒河江市で、毎日車で通っていますが、仮に寒河江西村山地区が合併したらと考えると、寒河江市のサービスも利用できるようになり、良いこともあるのかなと思います。

合併の話は、自分の住んでいる地域について考えてみるいい機会だと思います。若者からお年寄りまでたくさんの声を聞いて、もっともっと良い朝日町になればと思います。

遠藤　喜由さん
（栗木沢）

できるだけ多くの情報提供を

新聞やテレビでも市町村合併が大きく報道されるようになりましたが、私たちの生活に直接かかわる情報がほとんどないため、現実的に考えられないのが本当のところです。

合併によって暮らしがどう変わるか、税金や公共料金はどうなるかといったことを教えてもらえれば、住民の関心も高まると思います。町にはできるだけ多くの情報を提供してもらいたいです。

行政が一体となって考える良い機会ではないでしょうか。

地域の将来の進路を決めるのは、あくまで住民のみなさんの直接的な意志です。そのため町は、判断材料となる「的確な情報」と「だれでも参加できる議論の場」を提供したいと考えています。

広報あさひまちでは、研究会で話し合われた内容を掲載するなど、今後も合併問題について取り上げたいと考えていますので、ぜひみなさんの声をお聞かせください。

子どもたちに明るい未来を

ご利用ください 朝日町共通お買物券

7月23日より販売開始

町の共通お買物券ができました。お祝いや贈り物、記念品などにご用立てください―。

町内事業所約八十カ所で使用できる「共通お買物券」が七月二十三日より発売されることになりました。

町内での消費を増やして地域商業の活性化を図ろうと、「朝日町地域振興発展会」が町と商工会の助成を受けて作成したものです。

お買物券は一枚（五百円）から購入でき、町商工会で販売します。発行日より六カ月以内に、加盟店の表示があるお店で使え、商店はもちろん、飲食店やタクシー、ガソリンスタンドなどのサービス系事業所でも使用することができます。

また今回は、発売を記念してプレミアのついた特別お買物券も用意。一セット（一万円分）の購入に対して一割（千円）の割増金がサービスされるもので、二百セットが限定発売されます（一人五セットまで購入可能）。

町商工会の松尾事務局長は「お祝いや贈り物、記念品などを贈る際に、ぜひご利用いただきたいと思います。今後はより利用しやすい券となるよう、さらに加盟店を増やしていきたい」と話しています。

使って便利、もらってうれしい朝日町共通お買物券、お中元にいかがでしょうか。

●問い合わせ先
町商工会（☎67－2207）

役場で夏季の強化運動展開

地球にやさしい町実施中

平成二年に宣言した「地球にやさしい町」づくりに、役場一丸となって取り組もうという運動が七月一日よりスタートしました。

冷房の使用などでエネルギー消費がもっとも増大する七月・八月の二ヵ月間、マイカー通勤の自粛や節電の徹底などに努めます。

具体的な取り組みとして、▼冷房温度を二十八度に設定し、暑さをしのぐノーネクタイ運動を実施▼マイカー通勤者は週一回を目標に公共バスや相乗りで通い、庁舎近くの職員は徒歩か自転車で通勤▼昼休みは一斉消灯し、パソコンなどの事務機器の電源を遮断▼コピー用紙の両面使用など、六つの重点実行項目を定めています。

また、昨年よりも電気量を五％削減する数値目標も設定し、環境への負荷軽減だけでなく、経費の面でも削減を図りたいと考えています。

町民のみなさんも会議などで町の施設を訪れる際は、暑さをしのぐ服装でお越しくださるよう、地球にやさしい町づくり運動に、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

ノーネクタイ運動実施中

議会

六月定例町議会が六月十三日から二日間の日程で開かれ、一般会計補正予算など十三議案が審議されました。町政報告の主な内容は次のとおりです。

▼**総務課**　平成十三年度一般会計決算について、歳計剰余金は三億六千七百六十三万四千円余、実質純剰余金は三億四千百六十八万円余になる見込みです。起債借入は五億八百十万円です。

▼**企画課**　効率的な行政経営の実現をめざして行政評価システムの構築に取り組んでいます。

市町村合併については、庁内の課長補佐十三名からなる「市町村合併調査研究会」を五月に発足させました。合併の長所や短所など具体的な影響について調査研究を行い、西村山広域行政事務組合の合併調査研究委員会の動向も注視しながら、年度内をめどに結論を導きたいと考えています。

中沢地内に予定されている場外車券場は、地元地権者より承諾を得て、五月下旬に地形測量を開始したと設置予定会社から報告を受けています。

▼**税務町民課**　今年度の賦課状況について、総所得は給与所得の落ち込みにより前年対比九五・九％と四年連続の減、町県民税・固定資産税ともに減少しており、軽自動車税は自動車台数の増加により増額となっています。国民健康保険税は税率の改正により増額となっています。

▼**健康福祉課**　介護保険制度の要介護認定者は三百六十人で、そのうち介護サービス受給者は三百十五人です。

また、ふれあい荘におけるデイサービスは、六月から土曜日も実施することになりました。

▼**商工観光課**　木材製品利用住宅建築奨励助成金制度は九件の申請がありました。制度資金の少額融資保証制度は六件二千三百万円となっています。

雇用対策では、緊急地域雇用創出特別基金事業の実施により、新規雇用される失業者を十三人予定しています。

▼**農林課**　米の生産調整は、生産農家の協力により二一五ヘクタールの転作目標面積を達成できる見込みです。

果樹農家の経営安定を支援する県の補助事業（防除機六台、乗用草刈機十一台の購入とりんご大苗養成）が採択されました。三年目となる中山間地域等直接支払事業については集落協定数が五十三地区、約三千三百万円の交付金が予定されています。

▼**建設課**　大谷南線の工事は一部を残して地権者との契約を終えました。

今年三月に発生した主要地方道長井大江線大谷地内の災害現場は、現在ボーリング調査と立木調査を実施中で、工事開始は十一月頃と予定されています。

合併処理浄化槽の設置は、本年度百基を予算化していますが、現在までの申請数は三十基となっています。

▼**町立病院**　平成十三年度決算見込みについて、入院患者は前年度対比二百九十三人の増、外来患者は三千五百九十三人の増となりました。収益的収支は三千三百三十四万四千円の不採算を生じました。

▼**水道事業所**　平成十三年度の決算状況は、所長の兼務（建設課長）による給与費の減額や漏水修理にかかる費用の減少などにより、二千三百五十九万円の純利益がでる見込みです。

▼**管理課**　五月一日の学校基本調査結果は、小学校三十七学級四百八十一名で前年度より二学級四十三人減、中学校は九学級三百二十七人で前年度より十二人減少しました。

語学指導助手（ＡＬＴ）として小中学校の英語指導にあたっているルイズ・ベネット先生が一年間の契約を終え帰国することになりました。後任にはニュージーランド国よりアニータ・ダグラス先生（女性・二十一歳）が七月三十一日に来町する予定です。

小学校学区再編の状況は、来年度に送橋小と上郷小の宮宿小への統合を確認し、閉校式に向けた各実行委員会の立ち上げを行いました。今後、閉校式に向けて覚え書きの調印や条例改正、予算措置などを進める予定です。

▼**生涯学習課**　学校週五日制の実施にともない、各公民館においても子どもを対象とした行事を土曜日に実施する計画です。今後、町内の小中学校児童生徒を対象にアンケート調査を行い、学校や子どもの動向を把握し、事業推進に活用したいと考えています。

新しい福祉バスを購入

町の福祉バスがこのたび更新されました。

新しいバスは定員が二十九人で、高齢者でも乗り降りしやすいように、ステップを低くできる電動格納式補助ステップが搭載されています。外観はワインの町をピーアールする鮮やかな赤ワイン色。購入価格は五百九十八万五千円です。

長寿クラブの会合や婦人会のボランティア訪問など、福祉団体が活動する際の移動手段としてご利用ください。

▼**申込先**　町社会福祉協議会（☎67―2465）

福祉バスを利用してふれあい荘へボランティア訪問（西町婦人会）

西部陶芸教室

今日一日は陶芸家気分

七月五日・六日、西部公民館主催の陶芸教室が健康増進センターで行われました。いもがわ少年教室の子どもたちと一般の参加者あわせて二十四人が、長岡雅彦さん（太郎三）の指導で、皿や茶わん・花びんなど、思い思いの作品を製作。世界でたった一つの手づくり品ができあがり、うれしい笑顔を浮かべていました。

みんなで鑑賞

台所にあるスプーンも立派な陶芸の道具

の宝物

ロクロ、木ベラ、コテなどの陶芸道具

カメラさんぽ

仕上げの作業は真剣そのもの

完成した作品を

友だち同士相談しながら作業を進める

「ろくろがうまく使えないよ〜」

ズラリ並べられた作品は、世界でたった一つ

まちの話題

❶ 朝日分校跡地に鐘楼建立

多くの同窓生たちが参加した除幕式

同窓生の心のよりどころに

平成10年に閉校した左沢高等学校朝日分校の跡地に新たなシンボル「鐘楼」が誕生し、6月9日に除幕式が行われました。

鐘楼の鐘は、第5期生（昭和28年卒業生）によって寄贈されたもので、校舎の通称「赤いとんがり帽子」の屋根につるされていましたが、校舎の解体により、左沢高校に保管されたままとなっていました。

そこで、多くの卒業生がその学び舎で学んだ証（あかし）として、また、次世代の人々に学ぶ喜びを伝えたいという思いから「閉校記念碑のそばに鐘楼を建設しよう」ということになり、同窓会で募金活動を実施。多くの同窓生や恩師、関係者のみなさんの温かい支援により、立派な鐘楼が完成しました。

鐘楼には、訪れた人が思いを自由に書くことができるようノートが置いてあります。「綴られた思いは、同窓会報に掲載するなどして、同窓生同士の親睦を深めたいと思っています」と同窓会事務局では話しています。

❸ 水とくらしの探検隊

中郷本田堰の記念碑に刻まれた歴史を調べる参加者

先人の偉業と水の大切さを学習

エコミュージアム寺子屋事業「水とくらしの探検隊」が6月22日に開かれ、小学4年生とその保護者ら約80人が400年以上も前から農業用水路として使われている「中郷本田堰（なかごうほんでんぜき）」を徒歩で歩き、先人の夢と偉業に触れました。

当日は、先祖が堰の工事に携わり、実際に堰を守る仕事をしていた柴田圭三さん（大町）の案内で、取水地点の上芦沢揚げ口から新宿の温水（おんすい）ダムまでの約4.5キロを見学。参加者は、柴田さんが少年時代に年間を通して堰の見回りをしたことや水不足時の水分配の苦労などの体験談を聞きながら、今もなお農業を支え続ける堰の役割について理解を深め、水の大切さを学んでいました。

❷ 町子ども育成会研修会

楽しい夏休みを前に

子どもたちが楽しみにしている夏休みがもうじきやってきます。キャンプや海水浴など、子ども会活動もいよいよ本番です。

町子ども育成会連絡協議会では6月30日、創遊館を会場に「キャンプを楽しく過ごすための研修会」を実施しました。テントでキャンプをする子ども会が少なくなったのか、参加者は10人とちょっぴり寂しいものでしたが、長岡信悦さん（常盤）を講師に、楽しいゲームとテント設営、野外でも簡単にできる料理の作り方を学びました。

テント設営を学ぶ育成員さん

⑤ シルバー人材センター造園講習会

庭木の手入れを学ぶ

シルバー人材センターの造園講習会が７月２・３日の両日行われ、27人の会員が参加しました。造園業を営む、新宿の柴田一男さんを講師に招き、庭木の手入れの仕方を学びました。

会員のほとんどが初心者ということで、道具の種類や使い方から説明を受けました。パチパチパチと手際良くハサミを入れる柴田さんの様子に真剣なまなざしを向ける参加者たち。

３日には、実習を兼ねて緑ケ丘公園の樹木を手入れし、町民の憩いの場をきれいに整備しました。

⑥ 朝日中学生のボランティア活動

電話ボックスやカーブミラーを清掃

今年から本格的に始まった総合学習の時間を使って、朝日中学校の２年生108人はボランティア活動に取り組んでいます。

６月26日、ごみ袋とぞうきんを手にした２組の生徒たちは「自分たちの住むまちをきれいにしよう」と、宮宿地内のクリーン作戦を行いました。

道端にポイ捨てされている空き缶やビニール袋などを拾い集め、また、道路標識や交差点のカーブミラー、電話ボックスなどをきれいに掃除しました。

⑧ 地域リーダー育成事業「創遊塾」

地域のリーダー育成 創遊塾スタート

集落のリーダーを養成しようと「創遊塾」が６月25日、創遊館で開講しました。当日は、自治公民館から推薦された方や直接申し込まれた方など34人が参加。第１回は、創遊塾全体のコーディネーターでもある山形大学人文学部大川健嗣教授による「地域づくりの考え方」と題した講演が行われました。

大川教授は、これからの町づくりについて「都市生活者をどれだけ意識できるかがポイントになる。そのためには、自分の住んでいる地域の資源（自然・歴史・文化）を徹底的に調べ、都市生活者をそこへ誘って行けるようなルートや人を用意することが重要」と指摘。そのためには「私たち自身が自らの生活を楽しむことが大切で、地域づくりはできるところから少しずつ実践してほしい」と呼びかけました。

参加者たちは「大学の先生の話なので難しいのかと思ったが、わかりやすくおもしろかったです。次回もぜひ参加したい」と語っていました。

④ 全国都市緑化フェア

朝日町小唄を披露する柳香会のみなさん

緑化フェアを訪れた観光客に朝日町をＰＲ

第19回全国都市緑化フェアが行われている寒河江市の最上川ふるさと総合公園で６月21日、「朝日町の日」が開催されました。

会場中央にある特設ステージでは、町内の小中学生による和太鼓や鼓笛、吹奏楽演奏が行われました。また、フォークコーラスグループ「あめっかぜ」の歌や、大谷獅子踊り、朝日町小唄の踊りも披露され、多くの観光客たちに朝日町のよき伝統と文化を伝えました。

ステージわきでは、ワインやりんごジュース、漬物、ダチョウの革製品などの特産物を販売。買い求めるお客様で大いににぎわいました。

⑦ 自衛隊音楽隊コンサート

迫力ある演奏で魅了

６月28日夜、創遊館ホールで陸上自衛隊第６音楽隊のみなさんによる「さなぶりコンサート」が開かれました。会場が超満員となる420人以上の聴衆が訪れ、迫力ある演奏を楽しみました。

第１部は「カッコー・ワルツ」などの名曲６曲を披露。第２部では「宇宙戦艦ヤマト」や「明日があるさ」などおなじみの曲７曲が演奏され、「おさかな天国」では客席もいっしょになって〝さかな、さかな、さかな～〟と歌い出すほどの楽しいステージとなりました。

みんなのひろば

今輝いて

「風祭り」でみせます男意気
～伝統復活して30年～

「しばらく途絶えていた獅子踊りを復活させよう」と、大谷第四区の若者が立ち上がり、昭和四十七年五月に発足した大谷獅子踊保存会。今年で三十周年を迎えました。「師匠のもとで、毎晩汗だくになりながら練習したことを思い出します」と事務局長の佐藤伸寛さんは当時を懐かしく振り返ります。

現在の会員は二十五人。年齢も二十代から五十代までと幅広く、親子二代で活動している会員も二組います。「踊りは父から教わりました」という長岡司（つかさ）さん（22歳）。お父さんの熱い思いは、次の世代へしっかり受け継がれているようです。また、「踊りの時は、必ず大谷四へ戻り参加しています」というのは佐藤孝男さん（前田沢）。伝統の継承に会員の和は欠かせないようです。

今は、八月十五日に永林寺で行われる「送り盆の供養獅子」と八月三十一日の「風神祭」に向けて練習中。「地域の宝を親から子へ、子から孫へ伝え、後世へ残していきたい」と会員の皆さんは力強く語ってくれました。

寒河江市で開かれている全国都市緑化フェアにも出演

大谷獅子踊保存会

角田流大谷獅子踊りは、江戸時代後期の文化年間（1804～1818）に、当時大谷の満天神社の神官であった白田外記（げき）が仙台藩伊具（いぐ）郡角田村（現在の角田市）の獅子踊りを取り入れたのがはじまりとされている。

昭和57年に町無形文化財の指定を受け、平成３年には県の無形民俗文化財にも指定された。

保存会の発足は昭和47年５月。以後、風神祭での披露をはじめ、那須大谷開拓村への親善訪問、北海道・東北民俗芸能大会、全国獅子舞フェスティバルなどへの出演と目覚ましい活躍を続けている。

となりのリンゴさん

作・ホリィ (142)

オペラへの招待状

今井さん山形市で リサイタル

大谷二ノ 白田 斉(ひとし)さん 智美さん

新婚さん

仕事で知り合ったというお二人。交際中の一番の思い出は、運送会社に勤める斉さんの仕事に同行して秋田まで行ったこととか。「一生懸命汗を流して仕事をする姿に感動しました」と、心も体も大きく頼もしい斉さんに智美さんはひかれたそうです。

小学3年生から剣道をしているという斉さんは、出身の東根市で子どもたちに週3回剣道を教えています。「剣道の試合で朝日町にも何度も来ていました。それに、以前造園の仕事をしていた時には、町立病院の工事などで毎日朝日町に通っていたんですよ。見えない糸ってあるんですかね」と話します。

現在は、寒河江市内のアパートで二人の時間を大切にしていますが「子どもが生まれたら大谷に帰ります」とのこと。「早く地域になじんで、友だちを作りたいですね」と話す斉さん。12月にはパパとママになる予定で、赤ちゃんの誕生を楽しみにしているという。笑顔のすてきなさわやか新婚さん、お幸せに！

オペラ歌手今井倭子(しずこ)さん（前田沢）の「オペラへの招待状」と題したリサイタル（独唱会）が六月九日、山形市の山形テルサで行われました。

第一部では山形市出身の歌手淀和恵(よどかずえ)さんと今井さんの独唱で「ジョスランの子守唄」や「セレナーデ」など九曲を熱唱。第二部では、町内のコーラスグループ「コーロ・アウローラ」（松田昌弘会長）や米沢吹奏楽愛好会の皆さんと一緒に「カルメン」や「アイダー凱旋行進曲」など九曲が披露されました。

県都山形市での初のリサイタルでしたが、会場いっぱいの八百人の聴衆は会場に響き渡る迫力ある歌声に、盛大な拍手を送っていました。

今井さんと「コーロ・アウローラ」のみなさん

町民の声

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。
町に対する意見や要望、みなさんの周りでの出来事や話題、
日ごろ感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場企画課　企画広報係
（☎67−2112　FAX67−2117）
■Eメール／kikaku@town-asahi-yamagata.com

公共物を荒らす行為許さない！

先 月末、西部公民館敷地内の芝生に車が乗り入れられたと館長さんから聞きました。私たち長寿クラブ会員が一生懸命手入れし、ようやく根付いた芝生がはがされてしまい、非常に悔しく許せません。
（匿名希望・常盤）

答 このような事件が発生し、とても残念に思っています。この件については、すでに調査を終えており、警察署に被害届を提出しました。
西部公民館周辺でのいたずらは今回が初めてではなく、以前にもあずま屋への落書きやベンチのボヤ騒ぎなどが起きています。
地域のみなさんの憩いの場として利用していただく公園が、一部のマナー違反者により破壊されるのはとても残念です。
今後は、関係機関と連携を密にし、見回りを強化するなどして、こうしたいたずらが起きないように取り組んでまいります。
（西部公民館）

芝生が無残にはがされた現場

場外車券売り場の動きを教えて

中 沢地区に競輪の場外車券売り場ができるという話は、どこまで進んでいるのですか。
（匿名）

答 昨年一月末、町に申出のあった競輪の場外車券売り場設置について、町としてもこれまで隣接県にある同様の施設の視察や設置地区住民のみなさんからの聞き取りなどを行ってきました。
視察や調査をしたいずれの施設においても、争いごとや問題はまったく起きていないことを確認してきました。
安定した就労の場の確保や交流人口の増加の面からも、町にとって多くの利点があるものと考えています。
設置業者からは、予定地区である中沢区の方々の同意を得て地形測量を行い、現在建物の基本設計を進めているとの報告を受けています。今後、基本設計などが固まり次第、地元に対する事業説明会や丈量測量が行われるものと思われます。
（企画課）

声の広報をお届けします

町広報委員会では、高校生ボランティアサークル「林檎（りんご）ｔｅａ（アップルティー）」のみなさんのご協力により、声の広報を作成することにしました。
毎月発行する広報あさひまちの中から、町政の話題や町の行事などをカセットテープに録音して貸し出します。
目の不自由な方だけでなく、「文字は読みづらくなった」という高齢者の方でも結構です。希望される方は企画課企画広報係（☎67−2112）にお申し出ください。

朝日町職員募集のお知らせ

平成十五年度採用の町職員を募集します。

■職種と採用予定人員
・一般行政職事務系　若干名
・同職技術系（土木、建築）若干名
・医療技術職（看護師）若干名

■受験資格
昭和五十二年四月二日以降に生まれ、高等学校卒業以上の者、または来春卒業見込みの者。
（ただし、医療技術職は昭和四十九年以降に生まれ、法に基づく資格を有する者、または資格取得見込みの者）

■受験受付期間
七月十五日(月)から八月十五日(木)まで。ただし、休日を除く

■試験日程
第一次／九月二十二日(日)
第二次／一次試験合格者に通知

■問い合わせ先
総務課庶務係
（電話67−2111）

こせきのまど

■6月1日～30日届出

すこやかに

（出生届）

区　名	出生児氏名	性別	保護者名
大谷三	川村さつき	女	仁・美穂子
太郎三	大井奏潤（そうる）	男	修・五月
大　町	松尾彩花（あやか）	女	昭彦・多紀子
太郎二	長岡李空（りく）	男	昭彦・美代子

やすらかに

（死亡届）

区　名	死亡者氏名	世帯主
小　原	菅井タマ	勝良
太郎二	村山シユ	康一
常　盤	阿部誠治	節子
四ノ沢	長岡きよ	本人
川　通	渡邉孝志	喜重子
宿	佐藤せい	賢一
松　原	安藤運太郎	新平
宇津野	佐竹道雄	康志
大谷五	鈴木捷夫	直
松　程	阿部庄次郎	忠良
西　町	多田知之	一恵
四ノ沢	渡邉ぶん	本人

●掲載を希望しない方は、お届けの際にお申し出ください。

人口と世帯数

●平成14年6月30日現在

人口		9,253人（減8人）
	男	4,599人（減5人）
	女	4,654人（減3人）
世帯数		2,582戸（減2戸）

（　）内前月比

ハーイ！ルイズです

1年間の任期を終え、8月6日に母国イギリスに帰国されることになったルイズ先生より、最後のメッセージをいただきました。

Au revoir

さようなら、また近いうちにお会いしましょうね

町民のみなさんの歓迎を受けて着任したことが、つい昨日のことのように思われます。この1年間ずっと、みなさんが私を支え、親切にしてくださったことに深く感謝いたします。朝日町の生活と勤務は本当に楽しいものでした。たくさんのすてきな思い出と写真、おみやげを持ってイギリスへ帰ることができます。

小学校でも、中学校でも、英会話教室でも、楽しく英語を教えることができました。お別れするにあたって生徒のみなさんに覚えておいてもらいたいことが一つあります。それは「英語はおもしろいものだ」ということです。英語は気持ちを伝え合う手段です。習うばかりが英語ではありません。しりごみしないでください。間違いを気にしないでください。間違いなんか問題ではありません。一番大切なことはやってみること、英語を話すことを楽しむことですよ。みなさん、がんばって！

地域の行事にもたくさん参加し、楽しませていただきました。私は日本や日本の文化について多くのことを学んできました。帰国したら、日本独特の文化や生活の仕方をイギリスの人に伝えたいと思っています。私もみなさんに、創遊館の掲示板や英語劇「オズの魔法使い」の公演などを通して、イギリスの文化を伝えたつもりですが、理解してもらえたでしょうか…。

イギリスに帰ったら、イベントの企画や宣伝の仕事につき、朝日町での経験を生かしたいと思っています。日本語の勉強はこれからも続けるつもりですし、仕事でも日本語を使っていきたいと思っています。そして、ごく近い将来、仕事を通してかあるいは休暇を利用して、再び日本を訪れたいと思っています。

みなさんと、またお会いできることを楽しみにしています。みなさんがイギリスにいらしたら大歓迎いたします。そのことを忘れないでね。Please come to my country!

ルイズ・ベネット

Louise Bennett

英語の歌で手遊びを教えるルイズ先生（わかば保育園）

■広報あさひまち　第548号　平成14年7月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田太印刷所

わたしの作品

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展入賞

「ホタル見つけた」

鈴木由優（ゆうゆう）さん（四ノ沢・宮宿小3年）

全国土地改良事業団体連合会と都道府県土地改良事業団体連合会が開いた「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2001（応募総数2397点）の入賞作品。「ホタルがたくさん飛んでいるところを見たことがないので、朝日町でもこんなふうにいっぱい飛んでる所があったらいいな、友だちと一緒に見に行きたいなと思って描きました」と由優さん。審査員も「星とホタルの光がよく表されている。夜を描いたものであるのに明るさを感じ、詩的情緒のあるすてきな作品だ」と絶賛。

由優さんは「ホタルの住む自然がいっぱいの朝日町が大好きです」と笑顔で話してくれました。

春 夏 秋 冬

編集後記

サッカーワールドカップに燃えた六月。特に、日本の試合は地元開催ということで、テレビに釘づけになった方も多いのではないでしょうか。私もにわかサッカーファンになり熱狂しました。

テレビ解説などでよく耳にした「組織力」。私はこの言葉がとても印象に残りました。試合中の選手同士の連携はもちろん、それを支える監督、コーチ、そしてサポーターたち。心を一つにして力を合わせてゴールを決める「みんなの力」のすごさを感じました。

この「みんなの力」は、いろんな場面で必要とされています。家庭や仕事、そして、まちづくりにおいても。「みんなの力」を結集させ、活気ある、住み良い朝日町を築いていきたいなと、特集の取材をとおして思いました。（F）